

# 今求められる情報モラル教育

## ～ 個人情報の保護に関する授業実践 ～

北斗市立大野小学校 教諭 佐々木 朗

### 1. 研究主題設定の理由

インターネットや携帯電話の普及に伴い、ネットを利用した犯罪や人間関係のトラブルの事件・事故の件数もうなぎのぼりに増えてきた。

学校教育においても、子どもたちを情報社会の落とし穴から守るための情報モラルの指導が急務となっている。

本研究においては、その中で、「個人情報の保護について」を課題として取り上げた。昨今個人情報が価値を持ち、売買される時代となっている中、子どもたちにおいても、給食センターや運送会社を名乗る相手から友達の住所を聞きだそうとする電話を受けた経験のある者も少なくない。そこで、本研究を通して、自分の個人情報を大切にすると共に、友達の個人情報も安易に第三者に話すことのないようにすることを指導したい。また、特にインターネットでの個人情報の入力には慎重になることを指導したく、上記の主題を設定した。

### 2. 授業の構成及びねらい

子どもたちにとって個人情報の保護についての課題意識を育てるため、2時間の授業をセットとして構成した。その1時間目は個人情報を聞きだす電話への対応、2時間目は、ホームページへ入力された個人情報の行方である。

#### (1) 1時間目(電話による個人情報の聞きだし)

個人情報とは何であるかを定着させ、子どもたちにとって身近である電話での個人情報を聞きだす二セ電話を題材に使いながら、自分ならどうするか考えさせた。

子どもたちにとって、二セ電話は、比較的身近な存在である。クラスで経験があるものは1割程度で、間接的に話を聞いたことのあるという児童は5割を大きく超えた。私は、給食センター、警察、宅配便の3本の二セ電話のシミュレーションにより、子ども

たちにその対応をどうするかを考えさせた。

子どもたちには、怪しい電話や訪問があったら、その真偽を確かめる方法はあるのか、また、どのように対応していくのかが分かるということを1時間目の目標とした。

#### (2) 2時間目(ホームページへの個人情報の入力)

インターネットから個人情報を入力した経験のある子は、1割程度であり、是非体験させたかった指導内容である。前時の二セ電話で敏感になっている子どもたちをさらに二セホームページへ招待し、個人情報を実際に入力させ、それがどうなっていくかを知るという内容である。

授業は、子どもたちは私が作った二セのプレゼントのホームページへの個人情報を入力し、その集められた情報を悪徳業者が弄ぶところが授業の山となる。二セホームページは、玩具販売の会社が、子どもたちの放課後の様子を知るため、簡単なアンケートに応募し、ほしい商品を選び、最後に住所や氏名などを入れて送信するという流れになっている。送信されたデータは全て私へ電子メールとして届くように設定した。データは集計ソフトにより、即時表計算ソフトに取り込まれ、悪徳業者発のダイレクトメールのタックシールの打ち出しに使われる。この一連の社会の裏の動きを子どもたちに全て見せようという流れである。

私はインターネットは便利であり、積極的に活用してほしいと考える。しかし、確かな目を持ち、情報社会の落とし穴に陥ることのないような次代の担い手を育てたいと考えたわけである。



3. 総合的な学習（情報教育）指導案

日 時 平成 17 年 11 月 25 日(金) 第 5 教時

児 童 上磯小学校 第 5 学年 1 組

男子 16 名 女子 17 名

指導者 T1 教諭 佐々木 朗 T2 教諭 附田 勇人

(中略)

本時の展開

学習活動	教師の支援
インターネットでの個人情報の扱いについて学習しましょう。	
(1)導入課題について考える。	
インターネットで、自分の住所や名前を書き込んだ経験はありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの結果を P P T で見せながら。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな時に書き込んだのか。また、その後どうなったか。</li> </ul>
(2) 学習モジュールで課題を的確に知る。 パソコンごとに、学習モジュール「個人情報の発信は慎重に」を見せる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液晶プロジェクターを用いて学習モジュールを表示の仕方を教える。</li> </ul>
問題 1 主人公の行動で何が問題だったのか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容をワークシートに書き込ませる。</li> </ul>
問題 2 結末のようなことを防ぐためにどのようなことに気を付ければいいのか。	
(3)個人で、また、パートナーと話し合った内容を発表する。	
(4)インターネットでの書き込み体験をする。	
インターネットに、実際にプレゼントのホームページに書き込んでみよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手はどこのだれなのか、書き込んだ情報がどこに流れるかわからないことを理解する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々にインターネットを開き、応募してみる。</li> </ul>	
問題 3 どんなところが怪しかったらうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偽ものであることを知らせ、書き込んだ情報が他に漏れないことを確認する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・怪しいところがどんなところかを発表する。</li> </ul>	
(5) 収集されたデータについて学習する。	
住所や名前その後どうなっているだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このアンケートで何がわかるのか。会社はどこにあるのか。など</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪徳業者のパソコンで何をしているかを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師により、集められたデータがパソコンで加工され、ラベルとなって出てくることをスクリーンで見せながら、実演する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪徳業者からの児童宛の手紙を配る。</li> </ul>	
<p>内容は個人情報保護に対する注意点のまとめ</p>	
(6) 授業でわかったことをまとめる。	
パソコンを利用して書き込まれた個人情報は、いとも簡単に使われやすい形になります。書き込むホームページが本当に大丈夫なのか、よく確かめることが大切です。また、クレジットカードの番号などは、子どもは絶対に書き込んではいけません。	
(7) ワークシートに感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何人かに発表させる。</li> </ul>
感想 授業でわかったことや感想をまとめよう。	

#### 4. 授業の流れ

本授業は、平成 17 年度の渡島視聴覚教育研究大会の授業で、T2 の学級を借りて行った授業である。初めて会う子どもたちとの授業である。私にとっても初めての経験である。



学級は、積極的に手があがるクラスであった。「最初の個人情報とは何か。」でも様々な意見が出た。住所、氏名はもちろんのこと、趣味、血液型など、私も判断に迷うようなものも出てきた。個人情報とは何かをしっかりと押さえた上で、スキットへと入っていった。警察官を名乗る男性から母親の交通事故を知らせる電話でも、ほとんどの児童が、「父親の連絡先を教えない。」と答えた。どのように対応するかという発問に対しては、「ナンバーディスプレイで確認する。」「母親の携帯電話にかけて連絡をとってみる。」など論理的に考える発言が数多くでた。子どもたちの考えはかなり厳しいものであった。

5時間目が研究授業となる。インターネットへのアクセスは、子どもたちもふだんの授業で使っている



だけあってスムーズに開くことができた。いよいよ授業のメインであるニセホームページへの入力である入力段階では、個人情報入力の前に簡単なアンケートがある。放課後の遊び、家での勉強時間、好

きな教科、嫌いな教科などの項目に子どもたちは楽しく答えていた。また、当たるはずのないことがわかっているプレゼントに対しても、プリンにしようか、デジカメにしようか、迷っていた子どももいた。

いざ、個人情報の欄にたどりつくと、子どもたちの顔つきも幾分真剣になってきた。氏名、学年、性別を入力すると、最後に「送信」と「リセット」のボタンがある。巡視をしながら、「送信」の上でマウスが止まっている子どもがいた。「その『送信』ボタンをクリックしてね。」と指導すると、「先生、なんだか、ボタンを押すのがドキドキちゃう。」と答えてくれた。私は、「そのドキドキしたという気持ちはとっても大切なんだよ。インターネットを使う時はこの気持ちをずっと持ってね。」と優しく声をかけた。

全員の入力を確認すると、私は白衣に着替え、「それではみなさん。」という強面の声で、子どもたちに語りかけた。しーんとしてこれから何が起きる



のだろうという表情で、興味津々に私を見ている。メール集計ソフトを立ち上げ、子どもたちのパソコンから届いた個人情報の入ったメールを一瞬にして解析した。一覧表になって提示される自分たちの住所・名前。子どもたちからは、「わあー」という驚きの声があがった。悪徳業者から真顔の先生の顔になり、「手で書いたはがきは、悪徳業者が、がんばってパソコンに入れていかなければならないけど、メールできたら一瞬でこんな形になっちゃうんだよね。」と説明した。2時間目のメインの授業は子どもたちにとって、キーワードは「こわい」であり、「すごい」であるだろう。送信ボタンを押すのをちょっとためらっていた女子児童の「こわい」という気持ち、また、自分たちの個人情報が一瞬に一覧表になってまざまざと見せ付けられる、「こわさ」、そして「すごさ」を知る授業になったと思う。

## 5. 成果と今後の課題

冒頭述べたように、今回の授業実践においては、個人情報の保護の大切さを指導した。児童の感想や発表から、子どもたちには次のような力がついたことが成果としてあげられる。

・電話や訪問などで知らない人から、友だちの住所や電話番号を聞かれても、簡単に答えてはいけないこと。また、その対処の仕方。

・インターネット上での個人情報の入力については、とても便利であるが、その一方、デジタルになったデータは非常に扱いやすく、また第三者に流される可能性もあり、相手が信用できるかどうか、よく考えてから情報を入力すること。

・ネット上の金銭トラブルなどが多数報告されていることから、子どもがクレジットカード番号や銀行口座の番号などをネット上に書くことは絶対にしてはいけないこと。

子どもたちは、不審電話については経験や間接経験を通し身近なものとしてとらえることができ、今後の生活に活かすことができるだろうと考えられる。またインターネットでの書きこみについては、経験している子どもが少ないことから、ドキドキしながら、「送信ボタン」を押していた。授業の反省のところでもふれたが、「ちょっとこわかった」という子どもたちの言葉が聞かれた。このことは、今後子どもたちが大きくなって、ますますインターネットが身近となった時に、送信ボタンの上にマウスが来た時、「ちょっと待てよ。」と自分自身に確認の気持ちを持たせ、規約をもう一度見るとか、信頼してよいサイトかを再考する時間が一瞬でも作ることができることにつながっていくであろうと考える。

一方課題であるが、今回の授業では、二セのホームページ作り、そしてそれがメールで飛ぶという仕掛け作りに時間がかかった。また、悪徳業者がデータを処理する場面では、コンピュータ操作に関して、一定レベルの精通した能力が必要となる。そう考えると、同じ授業を誰でもが追試することができるかというそれは難しいと言わざるを得ない。

次に怪しい電話に対する対応である。授業では、明らかな二セ電話、二セかどうかわからない電話を扱った。子どもたちの多くは、いずれに対しても、ほとんどの子どもが「個人情報は教えない」と語っ

た。授業では、情報を教えなければならない場合もあるということは子どもたちにはっきりと伝えた。本物が二セか子どもたちが悩まなければならない時代が何とも悩ましいが、その場、その場に合った判断が本当のこの授業で身についたのか、また、どのようにすることが、警戒心を持ちつつも人間同士お互い信頼していくものと子どもたちの心に落ち着くか考えることも課題だと感じた。

ホームページでのキーワードは「こわい」であった。授業の話し合いの中でも、このこわさの「さじ加減」が適切であったかが問われた。子どもたちの感想の中には、「こわかったけど、勉強になった。」というものが多かった。子どもたちに、「インターネットでの個人情報入力は慎重に」ということを訴えていった。子どもたちにとって、それが、インターネットから情報を送るのはこわいこと、悪いことと思ってしまうのは授業が失敗になる。逆に、「楽しかった。おもしろかった。」でも困るのである。自分なりに子どもたちに適切であると思うさじ加減と考えたが、効きすぎ、効果薄などあるかもしれない。小学校5年生という段階に今回の二セホームページからの情報発信は、適切だったのかどうか、また、それを同検証していくのが今後の課題であろう。

## 6. 最後に

授業は、情報活用能力の3つの目標のうち「情報社会に参画する態度」にかかわる情報モラル、しかも個人情報の保護という全体から見るととても小さい領域について指導した。

子どもたちに小学校段階でつけさせておくべき情報モラルについては、今回の個人情報以外にも、数多くある。それを教育課程にどう位置づけ、どのように指導計画を立て、実践していくか、非常に大きな課題ではあるが、考えていかなければならないことである。子どもたちにとっては、教師の話だけでは、なかなか心には染みていかない。何かしら教材を作り、子どもたちに体験を通して指導していくことが大切であると考え。そのための教材やワークシートなどの情報の共有化をどのように進めていくかということも課題であろう。

私はこれからも情報教育の第一線の実践者として、授業実践を通して研究を続けていきたい。